

申請者情報

都道府県名	福島県
市区町村等名	会津若松市
地方公共団体コード	072028
担当部局名	企画政策部企画調整課スマートシティ推進室
責任者名（ふりがな）	本島靖（もとじまやすし）
責任者役職	室長
担当者名（ふりがな）	齊藤修啓（さいとうのぶひろ）
電話番号（代表・直通）	0242-23-4186
メールアドレス	smart@city.aizuwakamatsu.lg.jp
申請タイプ	TYPE3

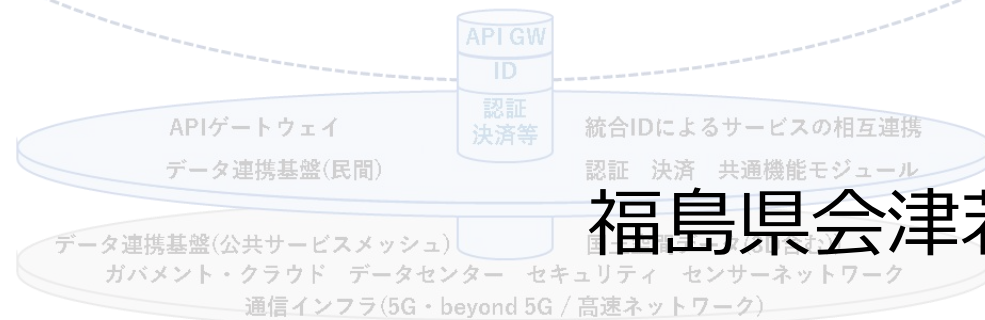
令和3年度補正予算

デジタル田園都市国家構想推進交付金

デジタル実装タイプ TYPE3

「複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業」に関する報告

令和5年5月17日



福島県会津若松市

プレゼンテーション資料



1.事業概要



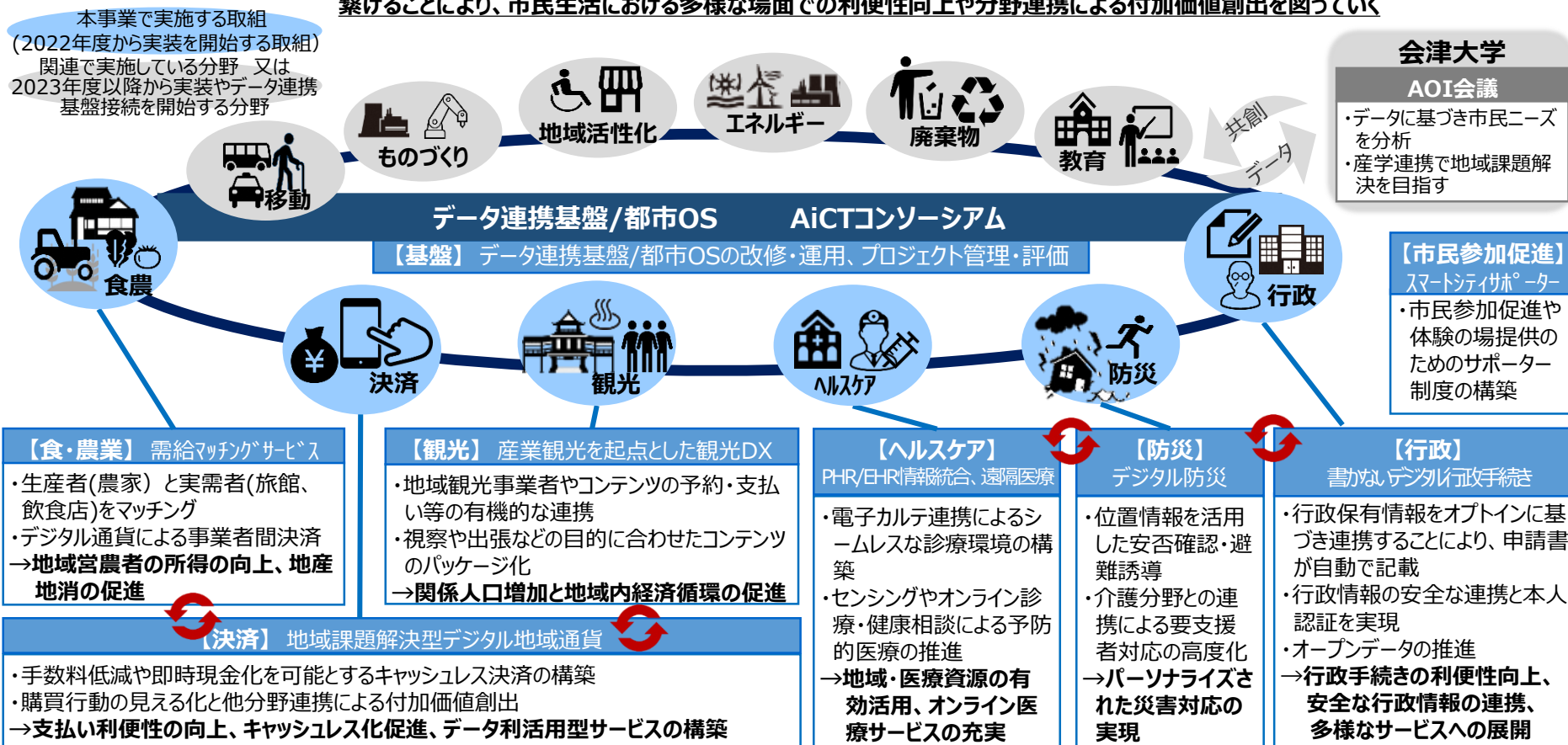
事業概要：「複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業」（公表用）



デジタル田園都市国家構想
DIGIDEN

実施主体	会津若松市、一般社団法人スーパーシティAiCTコンソーシアム、公立大学法人会津大学 他	事業費	830,200千円
概要	本市の人口減少の大きな要因となっている若年層の転出超過を抑制し、地元で「暮らし続けることのできるまち」「暮らし続けたいまち」を実現する為、地域産業基盤強化のための地域産業DXとWell-Beingを向上する市民生活DXの取組として、ICTオフィス「スマートシティAiCT」を中心とするICT産業の集積など約10年にわたるスマートシティの取組の成果を活かしながら、「食・農業」「観光」「防災」「ヘルスケア」「行政」等の各分野にわたるデータ連携と付加価値の創出に繋がるデジタルサービスを実装する。		

3年間を目標に、12分野においてデジタルサービスの実装を進め、これらのサービスを連携基盤を通じて有機的かつシームレスに繋げることで、市民生活における多様な場面での利便性向上や分野連携による付加価値創出を図っていく



2.サービス実装進捗報告書



本事業においては、以下のサービスを令和4年度3月末までに実装しましたので、報告を行います

サービス名	実装ステータス
①行政保有情報連携による書かないデジタル行政手続きナビサービス	令和4年10月に一部実装済 令和5年3月に実装済
②地域課題解決型デジタル地域通貨サービス	令和4年10月に一部実装済 令和5年3月に実装済
③産業観光を起点とした観光DXサービス	令和4年10月に一部実装済 令和5年3月に実装済
④地産地消促進のための食農需給マッチングサービス	令和4年10月に一部実装済 令和5年3月に実装済
⑤位置情報を活用したデジタル防災サービス	令和4年10月に一部実装済 令和5年3月に実装済
⑥PHR/EHR情報統合による医療ヘルスケアデータ連携サービス	令和4年10月に一部実装済 令和5年3月に実装済
⑦PHR/EHR統合情報を活用した遠隔医療サービス	令和4年10月に一部実装済 令和5年3月に実装済



書かない、待たない、迷わない デジタル行政手続き



対象	生活のどこで	市内のどこで	利用料	利用形式
会津若松市民	行政手続き	どこでも	無料	ブラウザ

- 「ゆびなびプラス」で、書かない・待たない・迷わない・行かない行政手続きができるサービスです
- 現在、「転入」「転出」「転居」と、それに伴う各種手続きで利用することができ、スマホ・パソコンで迷わず事前準備して、スムーズに必要な届出等を行うことができます
- 3月22日からはマイナンバーカードを活用して、行政保有の情報を利用するサービスを開始
- さらに3月27日から、対象手続きや取り扱い窓口を拡充予定



①「ゆびなびプラス」にアクセス



左のQRコードのページで上記のパナーをタップ

②「はい」「いいえ」で回答していく



質問に答えることで、必要な手続きがわかります

③ QRコードが届くので窓口で持参



④ 本人確認したら書類が完成



ゆびなびプラスの利用はこちらから→



※スマホやパソコンをお持ちでない方も、窓口で職員が「ゆびなびプラス」で書類作成をお手伝いします

特長① 書類を書かずに届出・申請

- ・ スマートフォンやパソコンでボタンタッチすれば書類が完成。氏名・住所を何度も書く…そんな手間から解放されます。

特長② 必要な手続きが迷わずわかる

- ・ ガイダンスに従って「はい」「いいえ」で答えるだけで書類が完成。手続きに関する知識は必要ありません。

特長③ 役所の窓口で待たずに手続き

- ・ 事前に作成した書類を確認するだけなので、窓口での手続き時間が短くなります。（一部手続きは来庁も不要）

地域みんなが使ってうれしい デジタル地域通貨



対象 会津地域の 市民や訪問者	生活のどこで 買い物	市内のどこで 一部店舗	利用料 無料	利用形式 会津財布アプリ
-----------------------	---------------	----------------	-----------	-----------------

- お金やレシートを管理できるウォレットアプリ「会津財布」に、「会津コイン」を実装しました
- 「会津コイン」で支払いをすると、その一部が地域のこども食堂への寄付に回るなど、地域の応援にもつながる『デジタル地域通貨』です
- 中小規模の事業者も導入しやすいリアルタイム精算処理による「現金化リードタイムゼロ」の実現を目指します

会津 コインの 使い方

① 会津財布アプリをダウンロード



② 使えるお店の情報をチェック※



③ 「会津コイン」をチャージ※



④ お店で支払い (QRコード決済)



会津財布のDLはこちらから→



※「会津コイン」導入店舗の掲載や、銀行口座からの「会津コイン」チャージは、2023年4月から本格開始します

特長① 市民がうれしい

- 地域のイベントやお店の情報などが得られ、クーポンやポイントも会津コインでまとめてアプリ1つで支払えます。

特長② 店舗がうれしい

- お店の情報が発信でき、既存のキャッシュレス手段と比較してコスト負担も軽く済みます。

特長③ 地域がうれしい

- 会津コインで支払うと、地域のこども食堂や地産地消、環境保全などの応援につながります。

地域観光資源の見える化・パッケージ化

デジタル観光案内

対象	生活のどこで	市内のどこで	利用料	利用形式
会津地域の 来訪者・市民	飲食・買い物等	市内のどこで どこでも	無料	ブラウザ

- 観光支援サービス「Visitory」は、地域の観光情報を一元的に発信し、来訪者※や市民の、「街との出会い」をサポートします
(※ スマートシティ視察の来訪者向けには、3月～行程管理機能を提供)
- 2022年10月の飲食店向け先行リリース以降、3月22日に観光施設・土産物店・交通などに対象を拡充し、地図ベースで情報を見える化します。
一部の飲食店では、開店・閉店・満席…など、リアルタイムな営業状況を発信しています。

Visitoryの 使い方

① Visitoryサイトにアクセス



② 観光関連の店舗情報を地図ベースで閲覧可能



- 掲載情報
- 飲食店
- 土産物産
- 観光スポット
- コワーク
- 交通

③ 一部の飲食店は営業状況を発信



Visitoryの
利用はこちらから→



特長① 観光情報の 一元的な発信

- ・ 様々なところに点在していた観光関連情報を集約し、旅ナカ・旅アトにも役立つ観光情報を発信しています。

特長② “いま”開いている お店がわかる

- ・ 一部の飲食店ではセンサーで開店・閉店情報等を発信しているため、二次会等今すぐ入れるお店探しに役立ちます。

特長③ 地域飲食店等の にぎわい活性化

- ・ 地域の営業状況等が可視化されることで、例えば飲食店同士の相互送客が進む等、にぎわいの活性化が期待できます。



デジタルで人と食と農をつなぐ

食農需給マッチング



対象 会津地域の 生産者、飲食店等	生活のどこで 食材・花卉等 の売買	市内のどこで どこでも	利用料 登録無料 (取引手数料のみ)	利用形式 ブラウザ
-------------------------	-------------------------	----------------	--------------------------	--------------

- 生産者と実需者を、デジタルサービス「ジモノミッケ！[®]」で直接マッチングするサービスです
- 3月下旬より「会津コイン」による精算機能を追加し、市況価格や取引情報可視化機能を拡充します
- 生産者から実需者に直接つながる新しい流通網を構築し、生産者の所得向上や地産地消の促進に貢献することを目指します



① 利用の申し込みが必要



必要情報をフォームで送信するだけで申込みが行えます
(※審査あり)

② 生産者と実需者をマッチング



ボタンを押すだけで簡単にマッチングが成立します

③ 生産者の軒先から実需者まで配送



マッチング後、ジモノミッケ！運営が集荷・配送を行います

④ 新鮮な農産物を地元で消費



地元の野菜を地場の飲食店等に利用してもらうことで、地産地消に貢献します

特長①

生産者の販路と所得を増やす

- ・ 生産者は、これまでの販路に加え、飲食店などの実需者に直接販売することができ、所得の向上が期待できます。

特長②

お店・施設が新鮮な農産物を仕入れ

- ・ 飲食店・施設等の実需者は、生産者から直接仕入れをすることで、従来より新鮮な食材を簡単に手に入れることができます。

特長③

地産地消が進み地域が活性化

- ・ 生産者と実需者が、お互いの顔が見える関係を構築できます。地産地消が進み、地域の活性化につながります。

ジモノミッケ！の利用はこちらから→



位置情報で安心 デジタル防災

対象
会津地域の
市民・訪問者

生活のどこで
平時・災害時

市内のどこで
どこでも

利用料
無料

利用形式
会津若松+アプリ

- 「デジタル防災」は防災用品の設定や災害情報の通知、家族への安否情報の共有などの機能を提供し、平時から発災時まであなたの防災行動をサポートするサービスです
- 在宅ケア支援アプリ「ケアエール」と連携し、ケアが必要な方（大切な人）の安否情報など状況共有を通じて、避難行動をサポートします（会津若松市民限定）
- 3月下旬より地域情報ポータル「会津若松+」アプリ上で本格提供開始

デジタル 防災サービスの 使い方

① 会津若松+アプリをダウンロード



② 防災用品、避難計画の作成など



③ 災害時には避難をサポート



④ 家族・大切な人の安否情報を共有



特長① 平時からの備えをデジタルで

- ・ 位置情報に基づいたハザードマップの閲覧や、防災用品の設定、避難計画の作成などが、スマホで簡単に行えます。

特長② いざというとき避難所を案内

- ・ 自宅にいるときはもちろん、もし、お出かけ先で被災しても、スマホが最寄りの避難所まで案内してくれます。

特長③ 自分や家族の安否情報を確認

- ・ 家族への安否情報共有に加え、「ケアエール」との連携により、大切な人の安否情報がスムーズに共有できます。

あなたと医療をつなげます
つなげるデータ医療



対象 会津地域の住民	生活のどこで 病院の受診	市内のどこで 竹田総合病院など	利用料 無料	利用形式 アプリ ダウンロード
---------------	-----------------	--------------------	-----------	-----------------------

- アプリに記録した日々のライフログ（体重・血圧…など）のデータをつなぎ、市民・医療従事者で共有できるサービスです
- 医療従事者が患者の詳細なデータを把握できるようになり、質の高い医療が受けられます
- 3月22日より、一部の医療機関の受診履歴を市民もスマートフォンで確認可能になります

データ
医療サービスの
使い方

① 対象アプリをダウンロード



② アプリにライフログを記録



③ 医療施設との連携を設定



④ 連携データによる適切な医療



ヘルスケアパスポートのDLはこちらから→



VitalgainのDLはこちらから→



特長① 測定値を有効に活用

- これまでの検査データは「測ったときだけ」。ライフログを記録すれば日々データを管理して有効活用できます。

特長② 自施設以外のデータも踏まえた診察

- 医療者は、患者の訴えや自施設の診療歴に加え、患者のライフログを閲覧できるため、適切な診察につながります。

特長③ 日々のライフログに基づく治療

- 医療者は、血圧の推移など、患者のライフログも参考にしながら、適切な治療方針を決めることができます。



パソコン・スマホが病院に つながる遠隔医療



対象	生活のどこで	市内のどこで	利用料	利用形式
会津地域在住の 高血圧の方など	健康に不安のある時	市内のどこで どこでも	有料 ※HELPOは無料でも利用可	アプリ ダウンロード

- ご自宅から、オンラインで血圧に関する相談や診察が受けられるサービス「テレメディーズBP」
- 専用の血圧計（無料貸出）とアプリで、日々の血圧を記録。データは医師に共有され、オンライン健康相談にも活用できます
- 3月中旬よりオンライン服薬指導や健康相談ができる「HELPO」もサービスを開始します

遠隔医療サービスの使い方

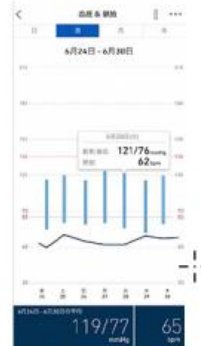
① アプリをダウンロードして登録



② 自宅に血圧計が届く（無料貸出）



③ 血圧計とアプリを連携



*オムロンコネクスト利用

④ オンラインで相談や診察



チャットで相談・予約
→オンラインで顔の見える診察

テレメディーズ
テレメディーズBPの
DLはこちらから→



ヘルスケアテクノロジー
ズ「HELPO」の
DLはこちらから→



特長① オンライン相談と組み合わせて安心

- 一度クリニックにて対面で受診すれば、これまで通院が難しく治療が継続できなかった方も、高血圧に対する適切な診療を受けることができます。

特長② 診察と診察の間もオンラインで

- 次回の受診までの血圧も自動で送信。予約や質問もスマホからチャットで行うことができます。

特長③ 希望の薬局にて薬をお渡し

- 希望の薬局でお薬を受け取れます。お薬によっては自宅のポストに直接お届けします。



● サービスの実装状況

開発・実装体制	シンク
実装ステータス	①令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	会津若松市
サービスのターゲット	行政手続きを行おうとする会津若松市民
サービスの規模感	令和4年10月以降、4.5か月間の中に受け付けた手続き5583件のうち531件（9.5%）で利用。（月平均88.5件）
サービスインに関するURL	https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2017032800032/files/20221101all.pdf https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2022091200037/
4月以降の運用体制	令和5年度4月以降、会津若松市により運用。

● サービスの実装状況

開発・実装体制	TIS、アクセンチュア、東芝データ、みずほ銀行、明治安田生命
実装ステータス	①令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	会津若松市
サービスのターゲット	会津若松市民及び訪問者
サービスの規模感	令和4年度中（一部利用開始した10月以降）に、574万円を決済
サービスインに関するURL	https://service.paycierge.com/aizu-zaifu/aizu-coin/
4月以降の運用体制	令和5年度4月以降、AiCTコンソーシアムにより運用（通貨発行主体はみずほ銀行）。

● サービスの実装状況

開発・実装体制	ソフトバンク、アクセンチュア、デザイニウム、NSC、CCC、ADD/AAA
実装ステータス	①令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	会津若松市
サービスのターゲット	会津若松市民及び訪問者（主に視察者・出張者）
サービスの規模感	487の地域事業者が参画し、令和4年度中の地域への経済効果は、約2500万円（一泊二日の視察単価38,600円/人をベースに算出）。
サービスインに関するURL	https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2012092500014/https://www.aict.or.jp/inspection-application https://aizuwakamatsu.mylocal.jp/article?articleId=634faa5a56af08127f34aa5a
4月以降の運用体制	令和5年度4月以降、AiCTコンソーシアムが運用。



● サービスの実装状況

開発・実装体制	凸版印刷、アクセント
実装ステータス	①令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	会津若松市
サービスのターゲット	会津地域の農業生産者、飲食店等
サービスの規模感	794件の取引が成立。1472個の作物の売買が行われた。（1日当たり4.4件、8.1個）
サービスインに関するURL	https://www.toppan.co.jp/news/2022/07/newsrelease220711_1.html https://www.toppan.co.jp/news/2022/10/newsrelease221011_1.html https://aizu.jimonomikke.com/
4月以降の運用体制	令和5年度4月以降、AiCTコンソーシアム（会津中央青果）が運用。

● サービスの実装状況

開発・実装体制	ソフトバンク、アクセントチュア、損保ジャパン
実装ステータス	①令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	会津若松市
サービスのターゲット	会津若松市民及び訪問者
サービスの規模感	72人が家族での避難情報共有機能を利用。13人の要支援者が利用。
サービスインに関するURL	https://aizuwakamatsu.mylocal.jp/article?articleId=635f504456af08127f35a088
4月以降の運用体制	令和5年度4月以降、AiCTコンソーシアムが運用。



● サービスの実装状況

開発・実装体制	TIS、アクセンチュア、富士通、Y4.com、オムロン
実装ステータス	①令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	会津若松市
サービスのターゲット	会津若松市民
サービスの規模感	18のデータ項目が連携基盤と接続。
サービスインに関するURL	https://aizuwakamatsu.mylocal.jp/article?articleId=634e3f5656af08127f348c3e
4月以降の運用体制	令和5年度4月以降、各社にてサービス展開を行う。



● サービスの実装状況

開発・実装体制	ソフトバンク、アクセントチュア、テレメディーズ
実装ステータス	①令和5年3月に実装済
サービスの提供範囲	会津若松市
サービスのターゲット	血圧管理に不安のある会津若松市民
サービスの規模感	44名がサービスを利用。
サービスインに関するURL	https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2013101500018/files/ketsuatsu_chirashi.pdf https://www.theport.jp/news/2022/9355
4月以降の運用体制	令和5年度4月以降、ソフトバンク及びテレメディーズが運用。



● **KPI達成状況** ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	書かないデジタル行政手続き数	種別	アウトプット	単位	個
KPIの概要、測定方法	書かないデジタル行政手続きのサービスを運用開始した手続き数を窓口拠点毎（本庁・支所等）に集計し、その合計値を測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	書かないデジタル行政手続き拡充の度合いを判断できるため。窓口拠点毎に測定することで、本庁だけでなく各窓口拠点への当事業の浸透度合いを判断することができる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	10		50		120

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	112
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—



● **KPI達成状況** ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	市保有情報の利用可能数	種別	アウトプット	単位	個
KPIの概要、測定方法	書かないデジタル行政手続きのサービスで取り扱いが開始された、市保有情報数（住民データ）を計測する。 当事業はマイナンバーカードの利活用を含んでいるため、マイナンバー制度における副本データ単位で計測することを想定している。				
事業成果等の計測に適する理由	市保有情報の利用可能数増加により、行政手続きにおける住民入力の削減に加え、職員による確認項目の削減も見込まれる。このため、当測定により住民及び職員双方における行政手続き効率化の度合いを判断できる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	5		10		20

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	9
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI③	ユーザ（住民）評価	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	書かないデジタル行政手続きの申請を行った住民の5段階評価の平均値。 デジタル申請手続きの一環で回答任意のアンケートを実施し、ユーザ評価をいただく。 ユーザ評価は既存手続きと比べた利便性、操作性に加え、オプトインを前提としたデータ利活用に関するアンケートを検討している。				
事業成果等の計測に適する理由	デジタル申請の利用実績からは測定できないユーザ評価を測定できるとともに、ユーザ視点でのサービス改善施策が取れる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2.8		3.2		3.7

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI③	4.19
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI④	デジタル申請の割合	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	デジタル化された窓口申請手続きにおけるデジタル申請の割合。				
事業成果等の計測に適する理由	デジタル申請が実際に住民に受け入れられているか（活用されているか）を確認できるため。また、KPI①と併せて実施することで、課題の早期発見と対策を講じることができる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	7.0		15.0		35.0

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI④	9.5 (531/5583)
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	地域通貨適用分野数	種別	アウトプット	単位	分野
KPIの概要、測定方法	地域通貨を適用するサービス分野数。				
事業成果等の計測に適する理由	小売・サービス、観光等の分野での適用程度を計測することができるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	3		6		8

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	3
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	年間決済金額	種別	アウトプット	単位	千円
KPIの概要、測定方法	地域通貨の年間決済額。 デジタル地域通貨基盤にて計測。				
事業成果等の計測に適する理由	地域通貨における地域内循環貢献の程度を計測することができるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	5,000		2,000,000		5,500,000

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	5,740
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI③	地域内経済活性化への寄与	種別	アウトカム	単位	千円
KPIの概要、測定方法	決済手数料を軽減した地域通貨サービスにより、一般的なキャッシュレスサービスを使用した場合と比べて節約できる決済手数料金額の地域内年間合計額を、地域内経済活性化への寄与分とし、デジタル地域通貨決済額から算出する。				
事業成果等の計測に適する理由	一般的なキャッシュレスサービスでは地域から流出していた手数料を本サービスで軽減することで、地域内に還流される地域経済活性化の程度を計測することができるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	100		40,000		110,000

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI③	172
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	観光PF(会津若松プラス)ID数	種別	アウトプット	単位	ユーザー数/年
KPIの概要、測定方法		観光PF利用に伴い会津若松プラスIDに登録したユーザー数。ID数をシステムで計測する。			
事業成果等の計測に適する理由		関係人口の増大、市民利用(飲食店他)など、本事業の浸透度合いを推し量るのに適切。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
5,000		15,000		20,000	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	128
達成ステータス	KPI未達成
上記に関する理由	当初、観光PF経由利用に会津若松プラス登録を必須とする運用を考えていたが、その後の検討の結果、必須としない動線としたため。
リカバリー策	観光PFリリース後の会津若松プラス登録者数は「1,546」名であり、数字には表れていないが一定の効果が表れていると考えている。この効果を数字上で表す手段について検討していく。

サービス実装報告③：「産業観光を起点とした観光DXサービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	連携地域事業者数（飲食、宿泊、物産、交通）	種別	アウトプット	単位	事業者数/年
KPIの概要、測定方法		本事業と連携し観光PFへ参画する地域事業者数。			
事業成果等の計測に適する理由		地域事業者のDX取組度合、地域事業者のスマートシティ事業への参画度合の計測に適切。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
50		200		300	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	487
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI③	視察・出張受入れによる地域への経済効果	種別	アウトカム	単位	千円
KPIの概要、測定方法	視察・出張受入れにより地域にもたらされる経済効果。一人当たりの視察単価：一泊二日＝¥38,600（飲食・宿泊・物産・交通等に係る平均的な費用を積算した値）をベースに受入れ人数と掛け合わせて算出する。				
事業成果等の計測に適する理由	視察・出張を通じた市外からの人の受入れによって、地域の飲食・宿泊・物産・交通事業者等がどの程度潤ったかを計測することができるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	19,300		28,950		43,425

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI③	24,858
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

サービス実装報告③：「産業観光を起点とした観光DXサービス」

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI④	飲食店営業状況見える化サービス加盟飲食店数	種別	アウトプット	単位	店舗数/年
KPIの概要、測定方法		本事業と連携し、飲食店営業状況見える化サービスに加盟する飲食店数。			
事業成果等の計測に適する理由		加盟飲食店数の増加度合いがサービスの質やユーザーの利便性を大きく左右するため。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
50		100		300	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI④	43
達成ステータス	KPI未達成
上記に関する理由	店舗開拓の営業開始時期が遅くなり、目標加盟店数に届かなかった。
リカバリー策	店舗開拓の取組をさらに強化していく。



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	需給マッチングプラットフォームにおける成約件数	種別	アウトプット	単位	件
KPIの概要、測定方法	需給マッチングプラットフォーム内において生産者・実需者間で取引が成立した件数。事務局（PF運営者）専用の需給マッチングプラットフォームアプリ画面にて確認する。				
事業成果等の計測に適する理由	需給マッチングプラットフォーム内における生産者・実需者間取引の成約件数が多いほど、本事業の普及が進んでおり、また、地産地消の促進に貢献しているものと考えられるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	7,200		48,000		96,000

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	794
達成ステータス	KPI未達成（なお、取引個数については「1,472」個であった）
上記に関する理由	<ul style="list-style-type: none"> ①生産者の単価が想定より10～15%程高値であり、八百屋等との競争優位性に欠けた。 ②実装が10月となり、会津で農作物の収穫量が少ない秋～冬期間の運用に留まったため。 ③事前発注の体制構築が難しく、実需者の定期的な発注に結びつかなかったため。
リカバリー策	<ul style="list-style-type: none"> ①市場の相場価格をアプリ内で可視化することで、競争力のある価格設定を生産者に促す。 ②新規登録やアプリ利用に応じてキャッシュバックするキャンペーンの実施やアプリユーザー間の交流会等のオフラインイベントの開催によって、アプリの流通量・品目数の増加を目指す。 ③アプリ入力代行で操作支援するとともに、食の陣などの地場イベントとジモノミッケ！の連動等、地場野菜の効果的な活用例を紹介することで利用を促していく。



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	需給マッチングPF参加ユーザー数	種別	アウトプット	単位	人/社
KPIの概要、測定方法	需給マッチングプラットフォームへの参加生産者・実需者の数。本サービスは自由に参加はできず、営業活動や公設市場・JAからの紹介により審査を経てユーザーを増やしていく想定である。事務局（PF運営者）専用の需給マッチングプラットフォームアプリ画面にて確認する。				
事業成果等の計測に適する理由	需給マッチングプラットフォーム参加ユーザーが増えれば増えるほど、会津若松市内全体の供給可能量と需要量の把握精度が上がり、生産者への営農指導や実需者へのレコメンド等の付加価値サービスに広げることができるため。				
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
生産者30/実需者30		生産者100/実需者100		生産者150/実需者200	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	生産者37/実需者31
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI③	生産者の平均所得向上率	種別	アウトプット	単位	%
KPIの概要、測定方法	需給マッチングプラットフォーム事業に参加している生産者、特に認定農業者の平均所得向上率。測定年の収益/需給マッチングプラットフォーム参加前の収益を計算し、測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	平均所得向上率の測定により、需給マッチングプラットフォームが生産者にもたらす効果を定量的に把握でき、生産者の意欲向上や若手後継者の参入促進に間接的につながると考えられる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	1.0		4.0		7.0

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI③	—
達成ステータス	KPI未測定
上記に関する理由	<p>①アプリユーザーのサンプル数が少なく、また半期だけの実施のため通年計測できなかった。</p> <p>②単純な収益比率では品目/年度ごとの時価変動の影響が含まれてしまい、需給マッチングプラットフォームの効果と一概に判断できなかったため。</p> <p>③販売単価の上昇・安定化だけではなく、規格外品の販路獲得や労働コスト削減による影響も測定する必要があることが事業を進める中で明らかになったが、準備が間に合わなかった。</p>
リカバリー策	生産者が多い品目に限定し、市場価格から時価変動を考慮した上で測定をおこなう。また、規格外品のマッチングも別途管理をおこなうことや、本サービス利用により生産者が時短できた所要時間をアンケート等で確認し時給換算することで、所得への影響度を確認する。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	家族での避難情報共有機能の利用者数	種別	アウトプット	単位	人
KPIの概要、測定方法	マイハザードサービス利用者の内、家族への避難情報共有機能を利用している利用者数。マイハザードバックエンドシステムと連携、確認し測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	防災サービスとデータ連携基盤を連携することで、家族の避難情報を1つの防災サービス内で一括確認することが可能となるため、データ連携基盤を活用した防災サービスの利用指標として家族での避難情報共有機能の利用者数を取得することは、本事業の成果測定に適している。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	30		300		3000

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	72
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	要支援者の利用者数	種別	アウトプット	単位	人
KPIの概要、測定方法	マイハザードサービス利用者の内、要支援者として登録されている利用者数。 データ連携基盤 バックエンドシステムと連携、確認し測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	要支援者の利用者数が多ければ多いほど、発災時における地域内の要支援者の避難状況を、自治体や支援者が早急に把握でき、要支援者支援への寄与へ繋げることができるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	10		100		1000

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	13
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI③	マイハザードサービスの満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	マイハザードサービスを利用した人の5段階評価満足度の平均値。 マイハザードサービスを利用した避難訓練実施時、利用者へアンケートを配布し、その回答を集計することで測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	避難訓練においてマイハザードサービスを利用頂き、満足した人数が多ければ多いほど、実際の災害時における活用率向上と、避難の寄与が高いと考えられるため。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	3.0		3.5		4.0

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI③	4.14
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	データ連携基盤への接続データ項目数	種別	アウトプット	単位	項目数
KPIの概要、測定方法		ヘルスケア領域における都市OS（データ連携基盤）接続データ項目数を測定する。			
事業成果等の計測に適する理由		ヘルスケア領域における都市OSに接続するデータ項目数の増加は、データ取得医療データ連携等で掲載できる情報の充実に加え、データ連携基盤の利用価値が高まっていることに繋がる。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
25		50		100	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	18
達成ステータス	KPI未達成
上記に関する理由	開発は完了しているが、キビタン協議会担当部会・理事会での協議が未了のため、実際に接続した項目数が少なくなっている。なお開発完了項目数は「28」個。
リカバリー策	キビタン協議会での協議、承認手続きを早急に進めていく。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	他施設情報を活用した相談/診療の件数	種別	アウトプット	単位	回/週
KPIの概要、測定方法		他施設の診療情報等を閲覧の上、オンラインまたは対面の相談/診療が行われた件数を、医療従事者用UIの利用履歴より週単位で測定する。			
事業成果等の計測に適する理由		当該指標は医療従事者用UIの活用度に関するデータであり、当該サービスの有用性および医療従事者にとってのユーザビリティを反映すると考えられるため。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
3		10		100	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	1
達成ステータス	KPI未達成
上記に関する理由	開発は完了しているが、医療機関での実利用展開に時間を要しているため。
リカバリー策	医療者向けのリビングラボを開催する等、医療機関での実利用展開を進めていく。

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI③	連携基盤から収集される情報量の満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法		医療機関情報やアプリ、各IoT等から収集できる情報の量について、5段階評価で利用者からアンケートを収集し、各年度同月時点の評価を把握する。			
事業成果等の計測に適する理由		当該指標は市民の主観的なサービスへの満足度が数値として反映されたデータであり、順次、都市OS連携サービスを増やし、その結果として情報量も増え、閲覧したい情報の充実度合いを測ることに適している。			
2022年度末		2023年度末		2024年度末	
2.5		3.5		4.4	

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI③	4.4
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI①	サービス提供企業数	種別	アウトプット	単位	企業数
KPIの概要、測定方法	ヘルスケア領域における健康医療サービス提供企業数の増加により測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	当該サービスを提供する企業の増加は、都市OS接続による情報連携、市民への付加価値の増加につながると考えられるため、成果計測に適している。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	2		5		10

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI①	5
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI②	オンライン相談/診療サービスの満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	サービス提供者がライフログデータや診療情報を参照できる状態でのオンライン相談/診療を利用した市民より5段階評価でアンケートを収集し、各年度同月時点の評価を把握する。				
事業成果等の計測に適する理由	当該指標は連携された各種データが利用され、オンライン相談/診療のクオリティが高まった結果として、市民の主観的評価が数値として反映されたデータであり、サービスの充実度合いを測ることに適している。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	3.0		3.5		4.0

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI②	4.1
達成ステータス	KPI達成
上記に関する理由	—
リカバリー策	—

● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI③	遠隔医療サービス利用者数	種別	アウトプット	単位	人
KPIの概要、測定方法	高血圧管理等の遠隔医療サービスを有料で利用する市民の数を、サービス提供企業の利用者データより測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	当該指標は、市民が自己の健康を管理する意識を持った上で取組へ参画している事、および当該サービスに対する市民の受容を示す指標であり、当該サービスの充実度を測ることに適している。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	20		200		2000

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI③	1
達成ステータス	KPI未達成
上記に関する理由	まずは無償でプレ利用して頂いて、必要性を感じた方に有料プランに移って頂く普及施策を取ったため。なお、無償でプレ利用している市民は「43」名。
リカバリー策	無償プレ利用中の市民から有料プランに移って頂く割合が増えるよう、サービスの有用性を訴求していく。



● KPI達成状況 ※実施計画書時に記載したすべてのKPIが対象

<実施計画書時点の内容（転記）>

KPI④	通院患者の血圧コントロール率	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	高血圧管理サービスと提携する医療機関を抽出し、通院患者において診察室血圧が140/90 mmHg未満(収縮期・拡張期ともに)となっている割合を年度末単月で測定する。				
事業成果等の計測に適する理由	通院患者全体で計測するため、高血圧ではない患者も含む点、医療機関の患者タイプに影響をうける点に考慮が必要なものの、高血圧管理サービスの広がりと有効性を示す成果の計測指標となる。				
	2022年度末		2023年度末		2024年度末
	65		75		85

<実施計画書時点の内容>

2022年度末のKPI④	54
達成ステータス	KPI未達成
上記に関する理由	3月末時点は、まだデジタルサービス利用者数が少なく、血圧コントロール率への影響が乏しい可能性がある。
リカバリー策	地元病院（主治医）とも連携しつつ、市民の血圧コントロールに努めていく。



● データ連携基盤との接続状況

①令和5年3月に接続済（ゆびナビぷらす）

【補足】

ゆびナビぷらすでは、データ連携基盤に接続することでオプトイン情報 及び 行政が保有する世帯情報を取得します。

● 接続する具体的なデータについて

- インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	世帯情報、オプトイン情報

- アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	なし
接続しているデータ種別	—

● データ連携基盤との接続状況

接続状況：①令和4年10月に接続済

会津コインのアプリケーションである会津財布からデータ連携基盤に接続し、都市OSのID認証・オプトインを取得開始。

また、スマートシティサービス間で行う決済APIについて、APIカタログに登録し公開。

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	都市OSID・オプトイン情報

● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	地域通貨決済結果データ

● データ連携基盤との接続状況

- ①令和4年10月31日に都市OSを通じた会津若松プラスからのユーザID情報の連携を実現。
- ②令和5年3月13日に都市OSを通じた会津若松プラスからのユーザ基本情報の連携を実現。

● 接続する具体的なデータについて

- **インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）**

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	オプトイン済み会津若松プラスユーザのID及び基本属性情報 (性別、生年、市区町村までの居住地)

- **アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）**

接続方法	—
接続しているデータ種別	—



● データ連携基盤との接続状況

①令和4年10月に接続済

● 接続する具体的なデータについて

- **インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）**

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	データ連携基盤（都市OS）上のユーザー情報データおよびデータ連携基盤上のサービス（地域通貨決済）のオプトイン情報

- **アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）**

接続方法	なし
接続しているデータ種別	なし (※ただし地域通貨決済サービスへはデータ連携基盤（都市OS）上のユーザーIDを利用しAPI接続にて決済情報を送受信)

● データ連携基盤との接続状況

令和5年3月に接続済

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	アカウント基本情報（基本4情報、準要支援者情報、家族情報を含む）、避難所情報、アウトイン管理情報、位置情報

● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	災害時安否情報

● データ連携基盤との接続状況

ライフログデータ連携：令和5年3月に接続済

処方情報・検査結果連携：令和5年3月に構築完了だが、サービス開始時期を協議中

※「処方情報・検査結果連携」については、キビタン協議会との運用の整理に向け追加協議を進めており、今年度担当部会・理事会での承認後に提供を開始する予定)

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	【ライフログデータ】身長、体重、血圧、体温、血中酸素濃度、呼吸数、血糖値、脈拍 【処方・検査結果データ】検査日時、検査名、検査値、検査単位、基準値範囲、処方日、薬品名、与薬量、用法・用量、処方期間（HL7FHIR形式）

● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	【ライフログデータ】身長、体重、血圧、体温、血中酸素濃度、呼吸数、血糖値、脈拍 【処方・検査結果データ】検査日時、検査名、検査値、検査単位、基準値範囲、処方日、薬品名、与薬量、用法・用量、処方期間（HL7FHIR形式）

※複数のサービスから同種のデータを連携している項目があるため、KPI掲載の項目数とは一致しない

● データ連携基盤との接続状況

- インプット方向のデータ連携

【ライフログデータ】令和5年3月に接続済

【処方・検査結果】令和5年3月に構築が完了しているが、サービス開始時期を協議中

※「処方情報・検査結果連携」については、キビタン協議会との運用の整理に向け追加協議を進めており、今年度担当部会・理事会での承認後に提供を開始する予定)

- アウトプット方向のデータ連携 令和5年3月に接続済

● 接続する具体的なデータについて

● インプット方向のデータ連携基盤との接続について（データ連携基盤→（データ）→実装サービス）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	【ライフログデータ】身長、体重、血圧、体温、血中酸素濃度、呼吸数、血糖値、脈拍 【処方・検査結果データ】検査日時、検査名、検査値、検査単位、基準値範囲、処方日、薬品名、与薬量、用法・用量、処方期間（HL7FHIR形式）

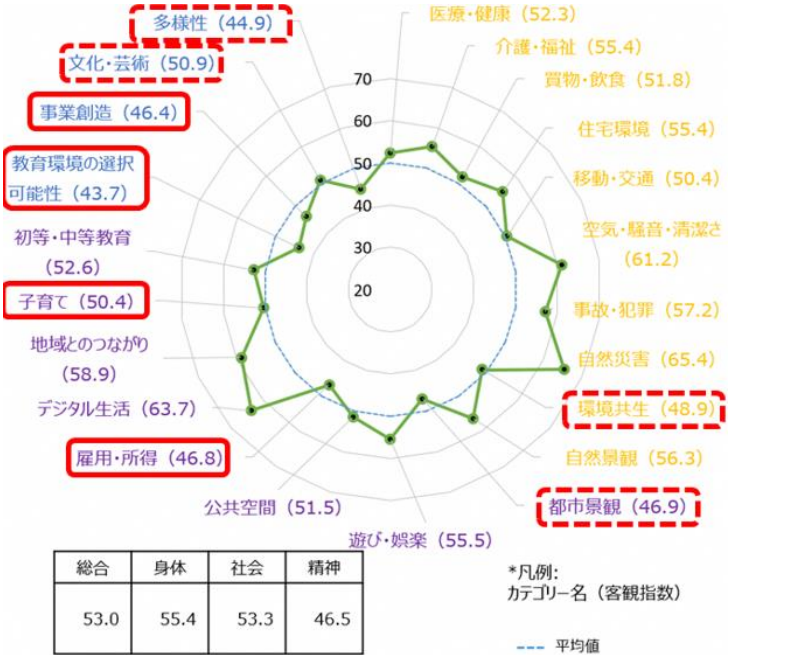
● アウトプット方向のデータ連携基盤との接続について（実装サービス→（データ）→データ連携基盤）

接続方法	API接続
接続しているデータ種別	処方日、薬品名、処方期間（HL7FHIR形式）

3.まとめ



令和4年度におけるWell-Being指標を活用した調査概要

Well-Being指標を活用した具体的な調査手法	成果物								
<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート調査 ● 実施期間：令和4年度2月15日～2月17日 ● 対象者：483名（民間アンケートサイトの登録者） ● 実施方法：WEBアンケート（設問数 76問） 	 <p>The radar chart displays 15 Well-Being indicators. A dashed blue circle represents the average score of 53.0. Several indicators are highlighted with red dashed boxes: 多様性 (44.9), 文化・芸術 (50.9), 事業創造 (46.4), 教育環境の選択可能性 (43.7), 子育て (50.4), 雇用・所得 (46.8), 環境共生 (48.9), and 都市景観 (46.9). A summary table at the bottom left shows scores for 総合 (53.0), 身体 (55.4), 社会 (53.3), and 精神 (46.5).</p> <table border="1" data-bbox="1243 906 1554 1013"> <thead> <tr> <th>総合</th> <th>身体</th> <th>社会</th> <th>精神</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>53.0</td> <td>55.4</td> <td>53.3</td> <td>46.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>*凡例: カテゴリー名（客観指数） --- 平均値</p>	総合	身体	社会	精神	53.0	55.4	53.3	46.5
総合	身体	社会	精神						
53.0	55.4	53.3	46.5						
<p>調査から得た具体的な示唆・独自の分析結果</p>									
<ul style="list-style-type: none"> ● 本市の特長として、自然災害リスクが低く、自然が豊かで空気が綺麗である。健康に対する意識が高い。地域とのつながりが強く、特に投票率が高い。そして、文化・芸術に関連するKPIが比較的高い。 ● また、雇用の機会や事業創造が、他市と比較し低めであることから、スマートシティの取組みによりICT関連産業の集積や新規雇用の創出が実現されることが期待される。 									

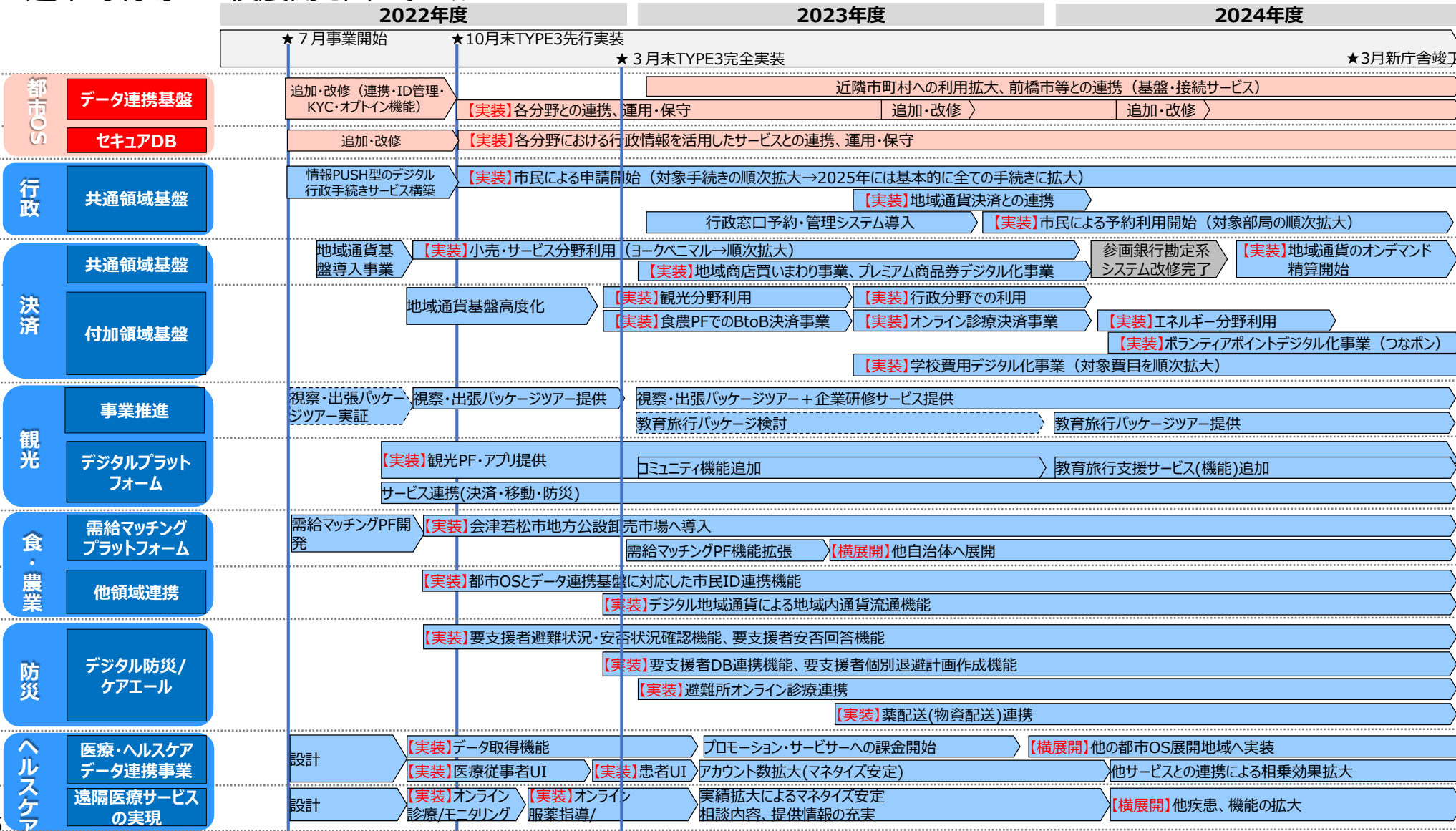
出典：「市民の幸福感を高めるまちづくりの指標 Liveable Well-Being City Indicator (LWCI)」(2022年6月10日) (一般社団法人スマートシティ・インスティテュート専務理事 南雲岳彦) (24ページ)

調査結果の今後の活用方針

- 令和4年度の調査結果等を、今後の施策立案や市民ワークショップの開催等に役立てていく。

今後の事業展望について

今後、さらなる市民理解促進を図り、サービス利用者数を増やしていくほか、構築したシステムの利用対象の拡大や周辺市町村等への横展開を図っていく。





デジタル田園都市国家構想

DIGIDEN